

歴史的遺産としての沖縄県の地名

琉球弧の島嶼名と失われる微小地名

歴史史料の再検討と西表島地名データベースを例に

オリテリウス編『世界の舞台』1570年刊

地図を削除しております。

当山昌直

神戸市立博物館蔵

『沖縄県史ビジュアル版12 古琉球』(200)より

琉球弧の島嶼名

歴史史料の再検討

- 九州島と台湾島との間に弧状に存在する島嶼をここでは暫定的に「琉球弧」と称する
- 琉球弧は、琉球列島、琉球諸島、南西諸島などと呼ばれている
- これらの島嶼は、時代とともにいろいろな名称で呼ばれてきた
- また、それぞれの島の集まりも、列島、群島、諸島などと呼ばれ、時代により変化した
- 私は、自然科学(生物)分野で地名を利用し、また職業として沖縄県史を担当してきたが、今回は利用者の立場から話をしたい。

前近代の琉球（地図）について

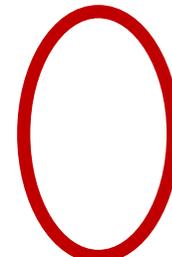
- 629年 中国隋の正史『隋書』に「流求国」の記述
流求は船で5日かかるところにあり、4つか5つの地域に分かれ、それぞれに小王がいる
- 1100年頃 中国宋『古今華夷区域惣要図』に「流求」
- 1372年 中国明『明実録』使節を「琉球」に派遣
- 1471年 朝鮮『海東諸国紀』では「琉球国之図」
「琉球国都」の文字がみえ、奄美諸島や沖縄島周辺の島々が確認できる
- 1500年代 ヨーロッパの地図では「レキオ (lequeo, lequios)」
- 1719年 新井白石『南島志』で「南島」(古い呼び方の1例)
- 1856年 ペリー遠征記の中で「Lew Chew」

➤ 「琉球」は外の国によって名付けら(使わ)れた名称か。

※ ・ は説明省略

1100年頃

地図を削除しております。



『沖縄県史ビジュアル版12 古琉球』(2003)より

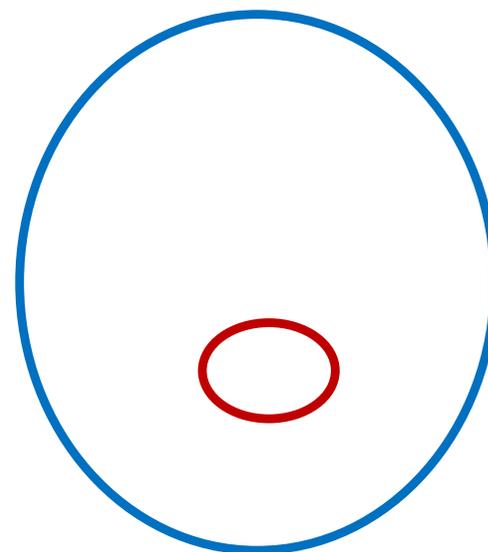
東洋文庫所蔵

地図を削除しております。

海東諸国紀

1471年

1570年



地図を削除しております。

神戸市立博物館蔵

オリテリウス編『世界の舞台』1570年刊

『沖縄県史ビジュアル版12 古琉球』(2003)より



琉球王国交易概念図

14世紀末～16世紀中葉

『歴代宝案の栞』より

琉球王国の外交文書集 歴代宝案

- 1424年から1867年までの444年間にわたる琉球王国の外交文書
- 東南アジア・中国との交易・交流について記され、「琉球」が使われる。

近代の琉球弧(地図)について(官と学)

- 大槻(1873)『琉球新誌』／地域区分を行い「琉球諸島」を地図で図示
- Naumann(1885)『日本群島の構造と生成』／Liukiu Bogen(琉球弧)の名称を用いる
- 水路告示第350号第946項(1888年:明治21)／「南西諸島」の名称が告示
- 小藤(1897)『琉球弧島の地質構造』地学雑誌／和文で初めて「琉球弧島」の名称を用いる
- 日本地質学会会長歴任した脇水(1906)『沖縄視察談』／「琉球列島」の名称を用い、尖閣群島を入れたが、大東諸島は入っていない。先島諸島を宮古群島と八重山群島に分ける
- 山崎・佐藤(1915)『大日本地誌・第十巻』／大隅、土噶喇、大島、沖縄、大東、先島、尖閣を各諸島として今日に近い地域区分をほぼ確立し、これらの地域を「琉球列島」の名称でまとめている
- Hanzawa (1935)『Topography and Geology of the Riukiu Islands』／琉球列島と南西諸島の違いを紹介。琉球列島は自然科学系の論文、南西諸島は海図などに使われているとしている
- 「南西諸島」の名称は、学術研究分野ではほとんど確認されない(目崎1983)。

※ ・ は説明省略

琉球弧の区分変化

いずれも目崎1983をもとに作成

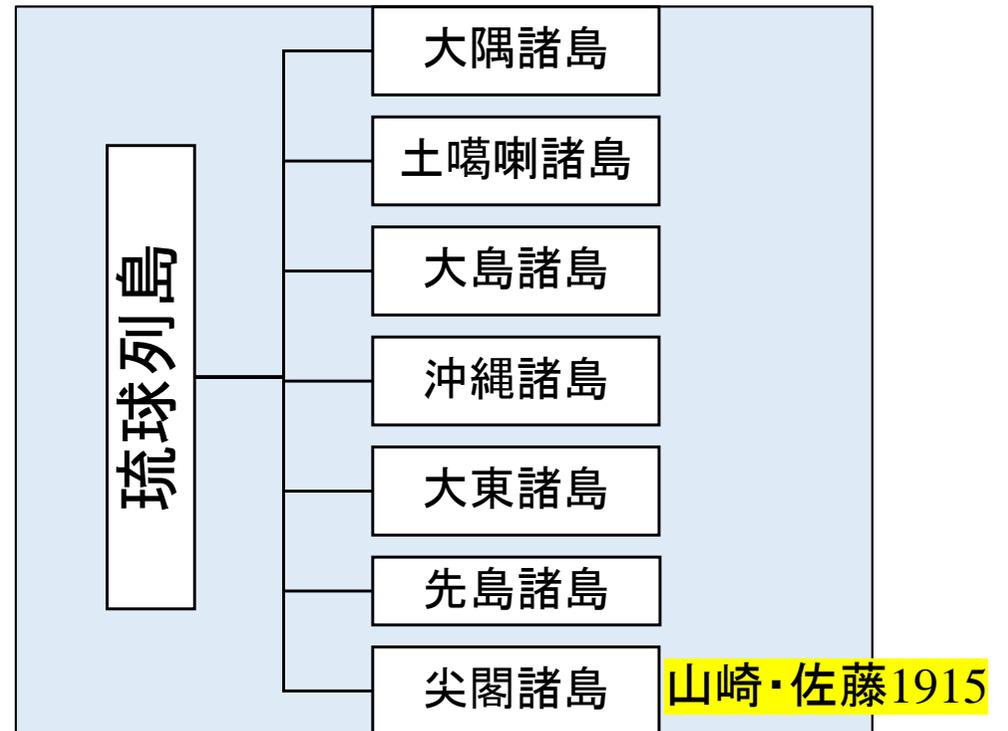
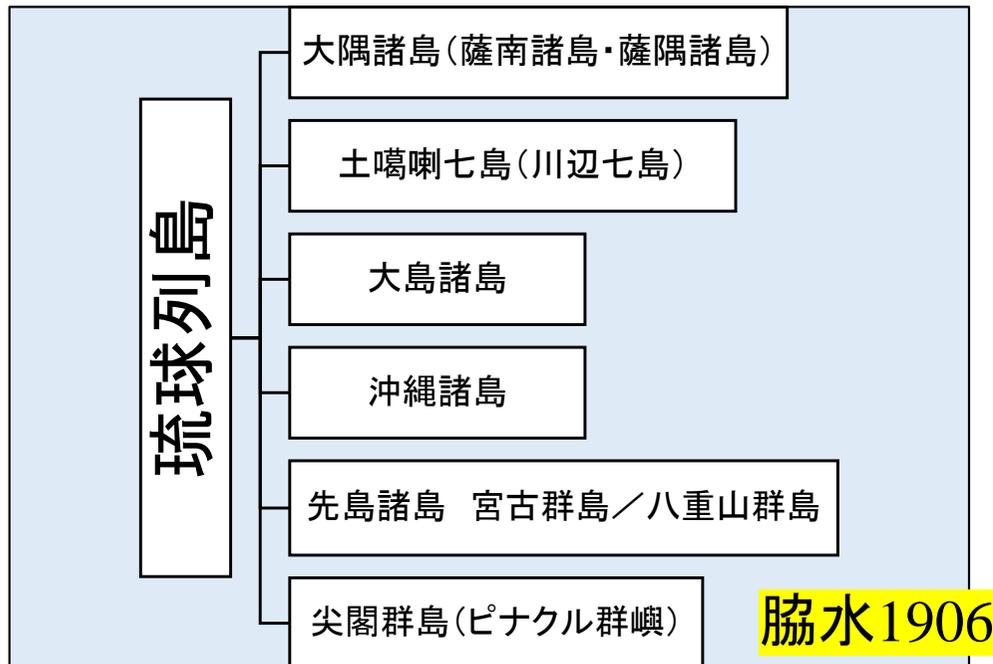
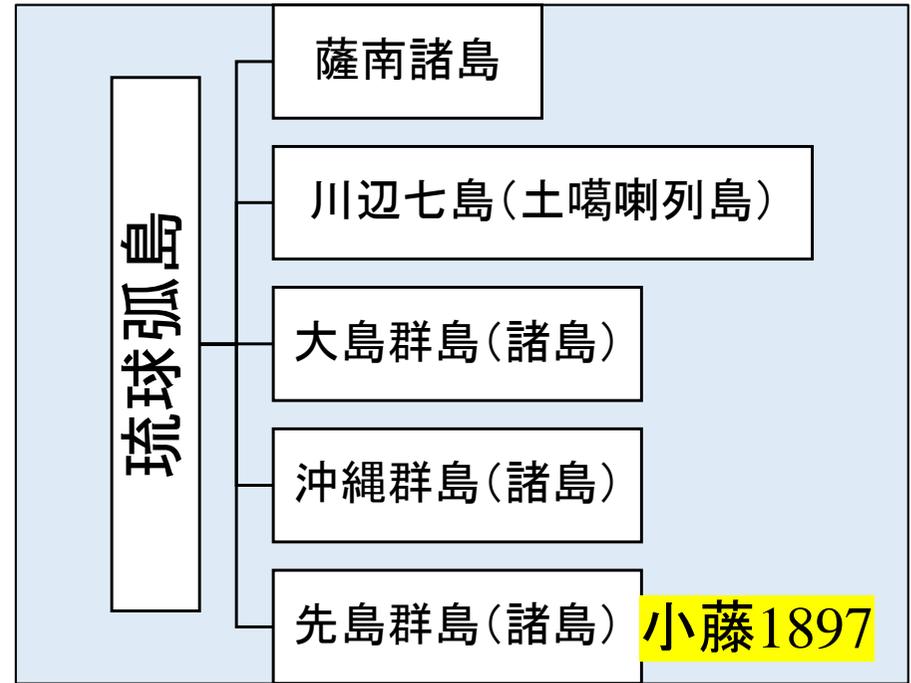
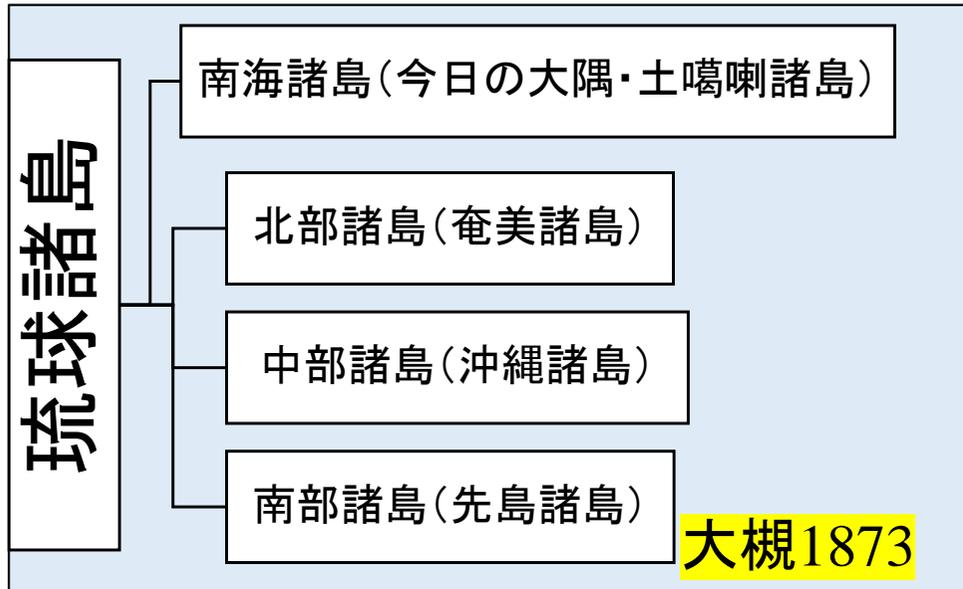


表1 国土地理院と海上保安庁の区分の違い(水谷2009をもとに作成)

国土地理院の区分と名称			海上保安庁の区分と名称	
南西諸島	薩南諸島	大隅諸島	南西諸島	大隅群島
		吐噶喇列島		吐噶喇列島 (安城割田2009では群島)
		奄美諸島(後、奄美群島)		奄美群島
	琉球諸島	沖縄諸島		沖縄群島
		先島諸島		先島群島
		尖閣諸島		大東諸島

主に諸島を使う

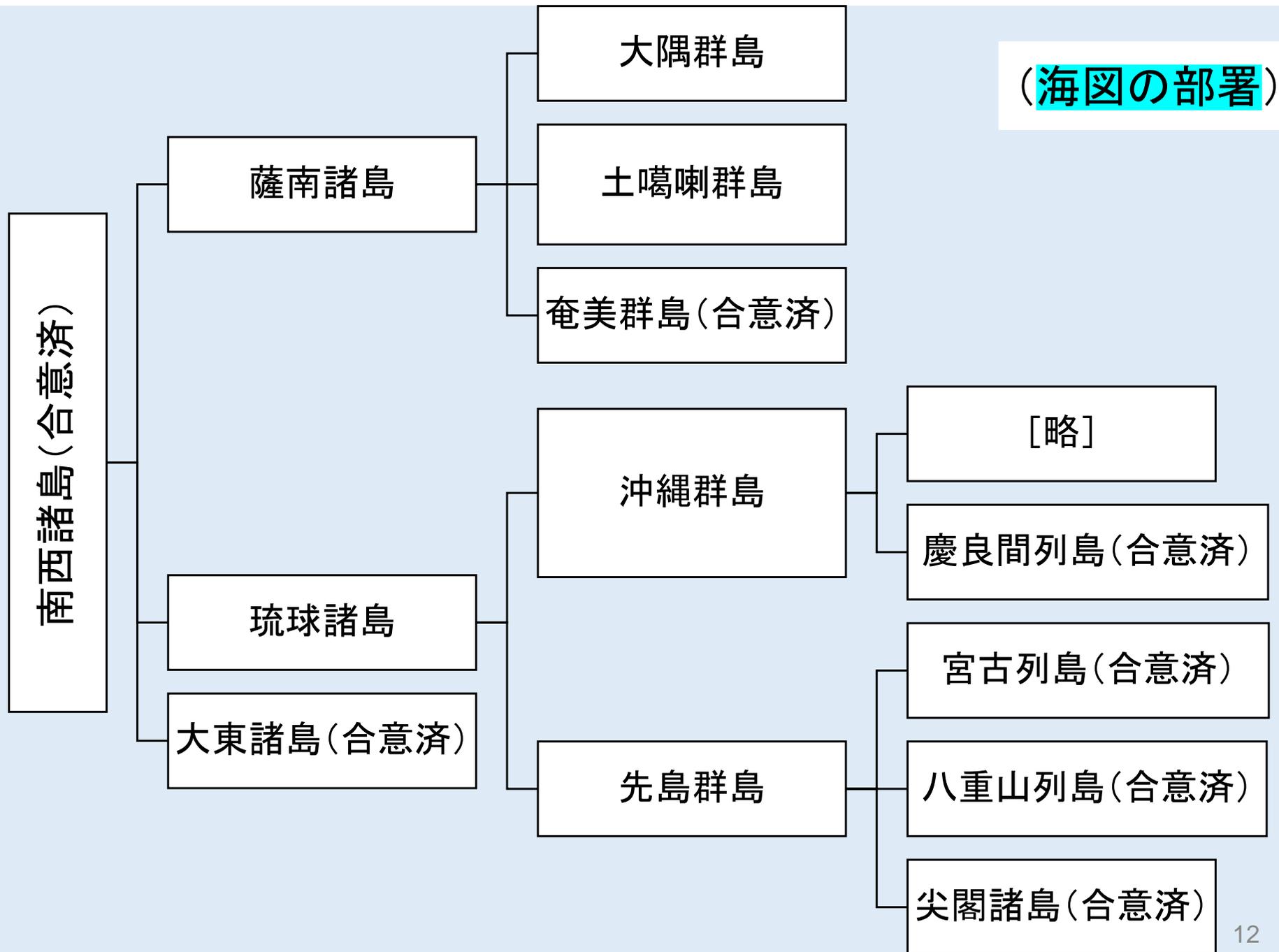
主に群島を使う

官の地図

利用する側から

- 琉球弧の中に諸島、群島、列島が混在
- 利用し(わかり)にくい
- 戦後から現在(宮古、八重山の事例)
群島→諸島→列島
- 論文などではどう扱うか(英語名は)
- 官の地図に基づく?
- 琉球諸島(県域)はRyukyu Islands?

海洋情報部と国土地理院との調整(安城・割田2009をもとに作成)



まとめ

- 南西諸島は官製の地図(教科書、気象など)
- 琉球列島は学術論文等
- 琉球弧内の島群の名称は陸図と海図によって異なる
- 担当部署の歴史が関係
- 国際的な関係(学では論文など)

- 学術分野ではどうするか
→歴史など、状況を理解しておく。

主な文献

- 安城たつひこ・割田育夫(2009)我が国の広域な地名及びその範囲についての調査研究. 海洋情報部技報27: 9-17.
- 目崎茂和(1983)南島・琉球弧の地名と地域. pp.19-25. 南島地名研究センター, 南島の地名第1集. 南島地名研究センター.
- 水谷知生(2009)南西諸島の地域名称の歴史のおよび政治的背景. 地理学評論 82(4): 300-322.
- 沖縄県文化振興会史料編集室(2003)沖縄県史ビジュアル版12 古琉球① 古地図にみる琉球. 沖縄県教育委員会.
- 高良倉吉(2012)琉球の時代——大いなる歴史像を求めて. 筑摩書房. 319pp.
- 当山昌直(2014)琉球列島の名称に関するメモ. 沖縄史料編集紀要 (37): 59-68.
- 当山昌直(2016)沖縄県史各論編 自然環境 第1章総論 第1節 研究史. pp.4-26. 沖縄県教育委員会.